



れい わ ねん がつ ごう う

# 令和2年7月豪雨



人吉市での福岡市水道局の応急給水支援(福岡市水道局提供)

日本では最近、これまで経験したことがないような大雨が降ることで、全国の水道局では、浸水しながらないところがあります。水道水を作る、もとの水を貯め、原水とあります。原水は地域によってダムの水、川の水、地下水などを使い分けます。が、原水を取る場所は、橋や山の道路に設置しなければならないところがあります。

7月の大霖では、長野県、岐阜県、静岡県、山口県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県等で大雨の影響で3万戸以上の家などが断水になりました。大雨が降ると、水道施設は被害を受けやすい理由があります。

はいくつかあります。水道の施設が浸水して使えなくなること、原水が濁つて水道水が作れなくなること、川の水に流れたり土砂くずれで水道水が管が壊れてしまふこと、停電で水道水を作つたり送られなくなることがその理由です。

降らせた令和2年7月豪雨では、水道施設にも被害が出で、大雨で断水がおこりました。

**なるほどポイント**

全国の水道局では大雨が降っても断水が起きないよう対策を進めていますが、大雨が降ると、断水がおこりやすくなります。大雨が降る天気予報が出たときは「断水するかも」と考えて、準備をしましょう。

断水が長引きそうなときは、全国の水道局が助け合うルールがありますが、各家庭で事前に断水に備えた準備しておくことは大切です。断水が起きても慌てず行動しましょう。

飲料水の備蓄目安  
1人1日3L×3日分=9L  
(首相官邸HPより)

**断水がおきたらどうする?**

全国の水道局では断水が起きないような対策を進めていますが、どうしても断水がおきます。い淨水場を作つたり、壊れにくい水道管に取り替えたり、停電しても機械を動かせる発電機の導入を急いで進めています。

しかし、たくさんの水を準備しておくことは難しいことがあります。そこで、日本の水道局は、断水が長引きそうななときには、大きな断水がおきたとき助け合うことになります。日本水道協会という全国の水道局が入つて、組織で断水が長引きそうななときには、大きな断水がおきたとき助け合うルールを作つてあります。今回の大雨でも、断水が起きた熊本県の人吉市では、近くの熊本市や、福岡県の福岡市と北九州市が給水車で駆けつけて、断水して困っている人に水を届けました。



2016年に発生した熊本地震時の様子

おきことがあります。ただでなく、地震による被害で古い水道管が壊れてしまつたときにも断水がおこつてしまします。

断水はいつおこるか予想で古い水道管が壊れてしまつたときにも断水がおこつてしまします。